

年齢班	クラス規模 (人)	全日制		半日制	
		専任教師	保育員	専任教師	保育員
小班(3~4歳)	20~25	2	1	2	条件整え た園は保 育員一名
中班(4~5歳)	25~30	2	1	2	
大班(5~6歳)	30~35	2	1	2	
混齡クラス	<30	2	1	2~3	

表2 幼稚園クラス規模と専任教師・保育員の配置水準
出典)『幼稚園教職員配置水準』(2013)に基づき、筆者が訳した。

(4) 幼稚園教師への評価

職称(「教師専門技術職称」の略称)は教師の資格と能力に対する専門的な評価と認定を行うためのシステムである。職称の種類によって教師の専門的能力(教育活動を行う能力、教育研究を行う能力等)に対する要求と評価の手続きは異なる。中国ではまだ幼稚園教師に向ける独立した職称評価システムがないため、現在、中小学校の教師評定基準を参照している。図4を参照し、上から下への順でいうと、「中学校高級」「小学校高級」「小学校一級」「小学校二級」「小学校三級」「職称なし」となる。例えば、「中学校高級」の職称に準じる要件について、「学歴要求」「職業道徳」「教育研究に関する要求」など多くの項目が設けられている。例えば博士号を持つ者は、小学校高級の職称で2年間以上の仕事経験を有すること(「学歴要求」)、第一著者で3万字以上の本を出版すること、あるいは市以上のレベルの公開雑誌で教育研究の論文を2本持つこと(「教育研究に関する要求」)、処分(論文の剽窃など)を受けていないことなどが必要とされる。(文責:盧)

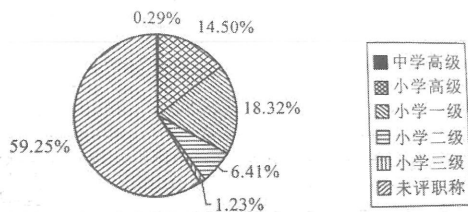


図4 2008年中国全国における幼稚園教師の職称の構成
出典) 庞丽娟、洪秀敏編『2011年中国就学前教育發展報告』(2012)北京師範大学出版社

注) 「中学高級」は「中学校高級」、「小学高級」は「小学校高級」、「小学一級」は「小学校一級」、「小学二級」は「小学校二級」、「小学三級」は「小学校三級」、「未评职称」は「職称なし」を訳す。

ベルを定め、園の収益を求めることはできる。訪問先のC園は営利型私立幼稚園に属する。対照的に、サービス型私立幼稚園は用地費用と土地使用税等が免除され、園の運営経費の補助金が政府によって援助されている。ただし、園の収益は法人が有することはできず、園の発展に還元すること、政府が定めた学費標準に準じる等の条件がつけられている。そして、国家レベルの法律と省レベルの評定方法に準じ、サービス型私立幼稚園が評定される。

(2) 入園率と幼稚園教師

2016年、中国の入園率は77.4%に達成した。2009年の50.9%と比べ、10年もないうちに、中国の入園率は26.5%も向上した。中国の『第三期(2017-2020)就学前教育行動計画の実施意見』(2017)において、2020年までに入園率を85%に改善することを政府の目標と挙げられている。

2015年、中国における幼稚園の教員人数は205万人となった。そのうち私立園の教員人数は127万人である。図3から見られるように、2001年、高校卒の学歴を持つ幼稚園教師は60%で最も高い割合を占めるが、2008年になると、専門学校卒の幼稚園教師の割合は高校卒の割合を超えた。同時に、高校卒以下の幼稚園教師が減っている一方、大学卒以上の割合は徐々に増加している。つまり、現在中国の幼稚園教師の大半は専門学校卒と高校卒の教師からなる。大学卒の幼稚園教師は10%以下で、専門学校卒と高校卒の幼稚園教師との差が依然として大きい。

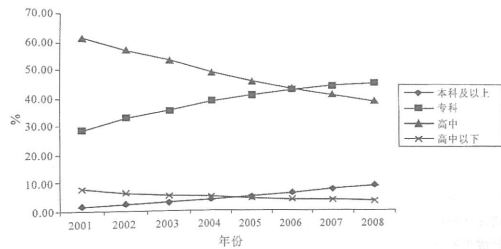


図3 2001-2008年中国の幼稚園における幼稚園教師の学歴変化
出典) 庞丽娟、洪秀敏編『2011年中国就学前教育发展报告』(2012)
北京師範大学出版社、p.12

注) 「本科及以上」は大学卒以上、「専科」は専門学校卒、「高中」は高校卒、「高中以下」は高校卒以下のことを指す。

(3) 教員資格と教員の配置

中国において、幼稚園の教員には専任教師と保育員がある。それぞれ幼稚園教師資格(教育部発行)と保育員資格(国家人的資源・社会保障部発行)を有する。専任教師は幼児に教育活動を施すことに対し、保育員は保健等の面で専任教師の仕事を補助する役割を果たす。このように、中国政府は資格の種類から教育と保育を区別している。「幼稚園教職員配置水準」(2013)に基づき、全日制の場合、30人規模のクラスごとに2人の専任教師と1人の保育員が必要である(表2)。教員人数の保証は、近年中国政府が就学前教育の質を向上させるための重要な施策でもある。

る状況にあることを憂慮した講演を聞くことができた。日本でも幼児教育の重要性を主張したとしてしばしば言及されるヘックマンであるが、経済学者であるヘックマンの議論は、社会的・経済的に有用な人材を養成するためには、幼児期の投資が最も有効なリターンを生むというものである。彼が依拠したデータを提供したのが、D園で使われているスコアを開発したハイスコープという団体である。ハイスコープの開発したスコアはヘックマンのような考え方と無縁ではない。D園で見た記録は、確かに、他の園で見たような定型的な記録ではなく、子どもを多面的にかつ丁寧に評価していくものであると言えるだろう。しかし、同時に、社会的・経済的に有用な人材育成という目的に合致したものであるとも言えるのではないだろうか。もちろん、性急なコメントは避けるべきであろう。

しかし、子どもたちの記録について、成長を結果や水準から記録していくことをどう考えるのか、私たちはまさに岐路に立っているのではないか。中国の就学前教育機関への訪問は、私たち自身の課題についてあらためて振り返る契機を与えてくれるものとなったように思われる。(文責：小玉)

4. おわりに -中国の就学前教育の概要-

最後に、今回の4園の視察報告の背景、基盤である、現在の中国の就学前教育について概要を説明する。

(1) 幼稚園の種類

中国における幼稚園とは、中国教育部が主管する3～6歳未満の幼児を対象とする就学前教育機関である。中国の幼稚園は大きく公立幼稚園と私立幼稚園に分類することができる。2015年、中国の公立幼稚園は幼稚園全体の44.6%で、私立幼稚園は55.4%を占める。

公立園の中にはまた、教育部園、集団園、部門園がある(図2)。教育部園は政府の教育部門によって設立され、幼稚園に関する一切の財産は教育部門に属し、すべての費用も政府から受け、園長は直接教育部門から任命される。訪問先のA園、B園とD園は教育部園に属する。また、集団園とは、村、区およびそれ以下の行政単位に設立され、園に関するすべての財産と費用は行政集団によって提供される園である。部門園は、ある政府部門、国家企業あるいは軍隊によって設立された園である。部門園はすべての人事権を持ち、すべての運営費用を負担する。私立幼稚園の場合、営利型私立幼稚園とサービス型私立幼稚園がある。2017年中央政府が公表した「営利型民間幼稚園に関する監督と管理の細則」によると、営利型私立幼稚園は幼稚園用地や税金を支払い、自ら園の学費レ

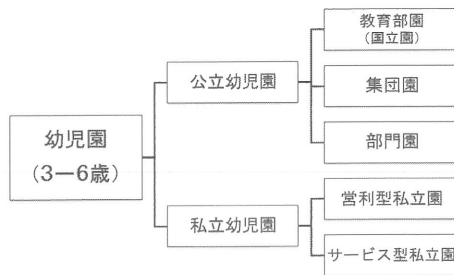


図2 中国における幼稚園の種類

(3) 二つの記録：D園

最後に訪問した北京にあるD園でも、同様の子どもの記録冊子を見ることができた。D園もモデル園というステータスの園であるが、B園のような冊子を園で独自開発して発行してはなかった。画像17はD園で見せてもらった「幼児成長記録冊」の表紙であるが、これらは一般の人でも購入することが可能ということであった。

中身の形式は、子どものプロフィールや家族構成など、これまで見てきたものと同様の形式であった。こうして見ると、一人ひとりの子どもの記録は、中国の就学前教育において同じように実施されているのではないかと、という印象を持った。

ところが、園長先生によると、D園ではこれらの冊子は、実際にはほとんど利用していないということであった。では一人ひとりの記録はないのか、と質問したところ、別に記録がある、ということで示されたのが、次の画像18である。

左側の画像18-1は、プリントアウトされたもので、もともとパソコンにフォーマットがあり、子どもの写真を取り込めるようになっており、それぞれ写真で子どもの活動が記録され、どのようなことができているのか、その活動の記録が記入されているものとなっている。この中では、子どもの活動についての評価が二人の教師によって書かれてある。この記入には基準があり、その基準となっているのが右側のスコアガイドであるという。

画像18-2は、アメリカの教育団体であるハイスコアによって開発されたスコアガイドの表紙である。これが中国語に翻訳されたものも見せてもらったのだが、教師たちはそれぞれこのスコアガイドに従って、子どもの成長の段階を評価するという。

子どもの記録を親たちが作っている園もあれば、教師が作成する園もあり、パッケージ化されたものが流通しているのを知ることができたが、D園のように子どもの発達の記録を細かく記録していくのは、この園のみで見ることができた。これは、北京の最上級と位置づけられているモデル園だからなのかもしれないが、この記録は細やかな記録であると同時に、グローバリゼーションの波がここに来ていることを示すもののように思われた。

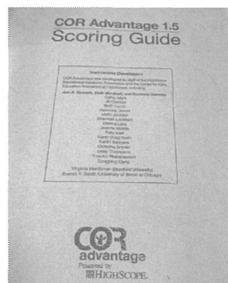
中国を訪問するわずか2か月前の8月末にイタリアのボローニャで開催されたヨーロッパ幼児教育学会（EECERA）に参加したのだが、そこで、大会基調講演をしたヴァンデンブロック氏（ゲント大学）の、世界がヘックマニゼーション（Heckmanization）とも言え



画像 17 D園記録冊子



画像 18-1 D園記録



画像 18-2 スコアガイド表紙

3. 何を記録し、何を評価するのか？

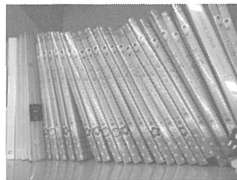
私たちは、それぞれの園で驚いたり感心したりと深い印象を受けてきたが、その中でも、4つの訪問先でそれぞれ、子どもたちの一人ひとりに関する記録は丁寧になされており、それらには共通点があり、また園による相違点もあったことは興味深いものであった。以下で、子どもたちの何が記録され、何が評価されるのかについて、尋ねてみたことを記述しておきたいと思う。

(1) 親が作る一人ひとりの記録：A園

最初に訪問した蘭州のA園で子どもの記録について尋ねたところ、教室の棚に並んでいた「幼児成長檔案」という名前のついた、一人ひとりの一年間の記録ファイルを見せてもらうことができた(画像15-1)。

これらはファイルを差し込むようになっていて、そこには、親が写真などを貼ったり記入したりして作成していくとのことであった。A園では日常的に親が教室に入室することが認められているわけではないが、定期的に親が入室してこれらを見たりすることができ、また、一年の終了時には親に渡されるものということであった。

画像15-2にあるように、子どもたちのプロフィールや成長の記録、家族の状況や日常的な姿、制作した作品の写真などファイルに差し込んでいくようにできていた。家族のほほ笑ましい様子や、子どものかわいらしい姿を捉えた写真など、家族によって作り方はまちまちであったが、手作り感があり、そこには、親たちがそれぞれ工夫して作成しているのを見ることができた。



画像 15-1 A園記録ファイル



画像 15-2 A園記録ファイル

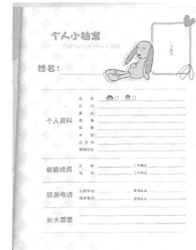
(2) 園が開発した記録冊子：B園

同じく蘭州のB園は、モデル園として目を見張るような施設や、工夫がなされている園であったが、A園のファイルに挟み込む形式とは異なり、独自の記録用の冊子「成長足跡」を開発して印刷作成し、そのフォーマットに合わせて記録していくように作成されている(画像16)。これは、教師が記入するものであるとのことであった。

個人のプロフィールや家族構成を記述していく点は同様であったが、記録冊子を独自開発しているところが、モデル園たる所以であるとも言える印象を持った。



画像 16-1 B園記録冊子



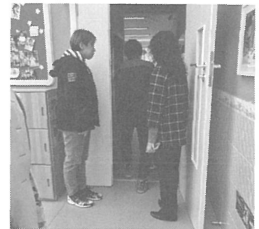
画像 16-2 B園記録冊子

とっていいほど窓があり、中が見える。これを当たり前だと思っていたことに気づかされた。

画像13-2は、D園の年長クラスのドアである。ドアノブが大人にしか届かない位置に取り付けられている。おそらく、子どもが自分でドアを



画像 13-1 A園ドア



画像 13-2 D園ドア

開けて保育室を出入りする必要がなく、教師が子どもたちの一斉的な移動を促すカリキュラムになっているということであろう（トイレは各クラスの保育室内部にある）。園庭や目的別の部屋などを、時間制で共有するシステムであるから、子どもの一斉的な集団行動をとりやすくすることの表れだと考えられる。

(6) 音環境

画像14は、B園の園庭で子どもが音楽に合わせて遊ぶシーンだ。この間ずっと、アメリカの人気歌手のリズミカルな曲が大音量で流れていた。この場面は動画で撮影していたのだが、音楽に合わせ、お尻を振って踊っている子どもたちはいかにも自然で楽しそうだった。どこかでこの光景を見たことがあると考えてみると、中国に来て何回か遭遇した、あの、街角で集団になって音楽に合わせて踊る元気な老人たちの姿に思い至った。街角に、大きな音で、再生機からの音楽が流れているのだ（蘭州の大きな寺院



画像 14 B園園庭

の境内では、ラジカセから音楽を流し、マイクの大音量でのご自慢をする人たちの姿も見た)。園庭にも、流れ続けている歌に合わせて巧みに踊りだす子どもがいれば、それをBGMで聞きながらアスレチックをやっている子どもたちがいる。おそらく、日本人が居合わせたら、大多数が「うるさい」と感じるだろうボリュームなのだが、これが中国の日常で、文化なのかもしれないと思った。

A園のクラスで、先生が全員に話しかけると、あるいは年長クラスの女兒が前に立ってお話をしていたときに、マイクを使っている光景も目にした。北京の園長にマイクを使うか尋ねると、「保育室では使いません」と言っていたので、園による意識の違いもあるのだろう。中国の京劇のにぎやかさを思っても、筆者には、音のボリュームに対する感覚は文化差も考慮して考える必要があるなど感じた。日本の音量感覚（子どもには静かに話しかけよう、など）を主張したところで意味はあるのかと考えさせられた。保育にユニバーサルデザインはあるのか？ という疑問を強くした。（文責：浜口）

張育慶（2013）中国における保育の現状 広島大学大学院教育学研究科紀要第二部 62、92.

J.Tobin, Y. Hsueh, M.Karasawa（2004）Preschool in Three Cultures Revisited, The University of Chicago Press.

絵本の読み聞かせ場面に、B園の図書室とC園の保育室で遭遇したが、両方とも大きなモニター画面を使っていた。また、「手はお膝」ではなく、「手は組んで後ろに」と指導する光景も見受けた。B園では、図書室以外にも、科学実験室、美術室、ゲーム室（子どもが作った各種のボードゲームや碁で遊ぶ）など目的別の部屋があった（画像10）。

保育室と隣接して、午睡用の部屋があった。A園とC園はベッド、B園は布団だった（画像11）。B園では、布団の消毒を、紫外線を含む照明灯で行うと聞いた。



画像 11-1 A園のベッド



画像 11-2 C園のベッド



画像 11-3 B園の寝室



画像 11-4 D園の二段ベッド

次はトイレ。J.Tobinらの日米中3国の幼児教育を比較した研究（2004）で、中国編の部分は、その多くのページをトイレに関する考察に割いていたことが記憶にあったため、興味深く見た。Tobinは、中国の幼児園でドアや仕切りもないトイレで男女の幼児たちが一緒に排せつをする光景を文化的社会的価値観の一象徴として非常に関心をもって記述し、彼の1回目の視察時（1980年代）と2回目（2000年代）の間に、その変化が見られたことを分析している。今回、私たちがC園とD園でトイレを見る機会があった（画像12）。回教幼稚園（C園）では男女は完全に隔てられているが、同性の間で仕切りはなかった（便器の色も多彩）。D園では、男女一緒だが、個人間に簡単な仕切りはある。今回の旅行中、鍵がないトイレに遭遇することは珍しくなく、間違えて使用中のところを開けてしまい、こちらが一方的に恐縮する場面もあった。一方で、われわれ日本人は、公衆浴場や混浴まであり得る文化を生きている。習慣の違いなのである。厳重なプライバシーを保持し、音消しまでする現代日本人のトイレ感覚も、ここ数十年の間に大きく変わってきたのである。



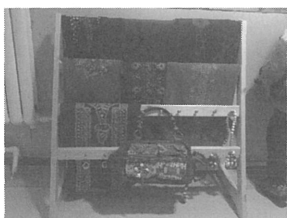
画像 12-1 C園トイレ



画像 12-2 D園トイレ

（5）ドア

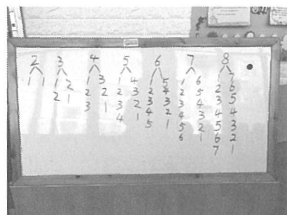
最初に訪問したA園で建物内を案内され、廊下を歩きながらどこか違和感を覚えた。子どもたちの気配が感じられなかったのだ。夕方訪問したので、もうあまり子どもがいないのかなと思ったほどだった。「ここが保育室です」と案内されて、ドアを押して中に入ると、子どもたちがたくさんいて、席に着いていた。降園間近で、どの保育室でも子どもたちが室内にいたということである。ドアには窓がなく、中が見えない（画像13-1）。ドアによって、保育室の外と内が隔絶されている印象があった。日本で、横に引く形の扉が多いのは、文化の反映でもあるし、狭い敷地ゆえの節約でもあろう。そして、扉には必ず



画像7 C園

識的に培うことがなおさら重要なかもしれない。一方、そのC園の廊下の一隅には、刺しゅうされた幾種類もの布が掛けてあり、その美しさは目を引いた。(画像7)。園長先生がその一枚を広げると、それは小さいサイズの民族衣装だった。エスニックな愛らしいバッグも傍に置いてあり、子どもたちがままごとで遊ぶのだそうだ。

B園の廊下には、教師手作りのさまざまなアイデア遊具が並んでいた。「手作り」のおもちゃを保育者たちが工夫して作ることを大事にしていると感じられた。廊下に、1の位の数字の加算を説明したホワイトボードが置かれていたのも目を引いた(画像8)。



画像8 B園

(4) 保育室、図書室など

A園で一斉に絵を描いている光景に出会った。サインペンやクレヨンを使ってそれぞれの子どもが道路を走る車の絵を描いている(画像9)。壁には、実習生が描いたという1枚の絵が貼ってあり、「お手本」として意図的に掲示したのかどうか確認しなかったが、幼児がそちらをちらちらと見ながら描く様子があった。



画像9-1 A園

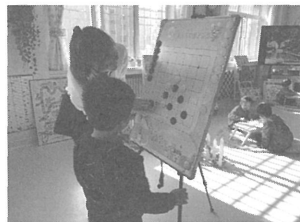


画像9-2 A園



画像9-3 A園

17時頃、4歳児クラスを訪問したときは全員が席に着いて食事をしていた。子どもたちは6人ほどのグループで着席し、金属製の容器から食べていた。18時降園なので、帰宅後また食事をするのか園長にお聞きすると、「これが夕食です」とのことで意外に感じた。幼稚園では、朝食から1日3食が支給されるという。週末だけ家族と一緒に食事をするのだろう。もともと80～90年代は寄宿制の託児施設も多かったという中国のことである。社会で子育てするという意識は、家庭に入る女性が徐々に増えている現代においても、やはり社会主義国として根付いていると言えるのかもしれない。



画像10 B園ゲーム室



画像3 A園通り抜け

こは地面が固くて、芝が育たない」と説明された。

A園には、つる草がトンネルになった通り抜けが作られていて(画像3)、ちょうど紅葉の季節だったので、赤く色づいて魅力的なスペース作りをされていると共感した。しかし、対照的に自然の捉え方の違いを実感したのは、B園の園庭の壁面のデザインである(画像4)。壁一面が緑に覆われ(そこに、白い五線譜のラインが描かれている)、太い幹の木が並ぶ様子は、一見、自然豊かな落ち着いた雰囲気に映ったのだが、園長先生がそこに近づいて、「ここは緑が少ないのでこのようなものを作りました」と説明され、人工の装飾だと気づいた。「緑」というものへの価値付けが異なるのかもしれないと興味深かった。



画像4 B園園庭壁面

B園の園庭では、実にさまざまな遊具(その多くは保育者の手作りだと聞いた)を使った運動遊びや、民族伝承の遊びなどが繰り返されていた。クラスごとに、外に出て遊ぶ時間が決まっており、交代で園庭を使っているとのことだった。C園でも見かけたが、男性保育者の姿があった。体育、運動的な遊びを担当することが多いそうである。

(3) 階段・廊下

C園の玄関前の階段を上り、最初の踊り場の曲がり口に、モニター画面(画像5)があった。厨房内の様子がリアルタイムに映し出されるとのことで、回教幼児園ではこうしなければならないという説明だった。次の階段を上ろうとすると、一段一段、すべての段の側面に、漢字で生活習慣に関する標語を書いた長細い紙が貼ってあった(画像6)。「食前とトイレの後は手を洗おう」とか「姿勢を良くして座ろう」などと書いてある。文字は漢字しかないとはいえ、幼児にこのようなメッセージの出し方をするのかと新鮮に映った。子ども向けの文字使用は、保育室の中でも見受けられた。



画像5 C園モニター画面

廊下という空間にはさまざまな教育的配慮が感じられた。壁面構成としては、例えばA園では、季節の果物を運ぶ汽車が色模造紙や布などで構成された作品や、地元蘭州市近辺の名所旧跡や観光地などの写真が貼ってあった。回教幼児園のC園では、子どもたちが切り紙で作った天安門や中国国旗の作品が飾られていた。異文化の子どもが通う幼児園では、「国」による結合感や愛国心を幼児期から意



画像6 C園階段

西寧市の私立園は、回教徒家庭の子どものための園である。見た限り、かなり立派な設備の園であった。私たちが訪れた園は、中国において決して平均的なレベルの園とは言えないだろう。しかし逆に、中国が自信をもって示す、理想の幼稚園の形が示唆されているのだと考えることも可能である。

まず、各園の内部の様子を、物的環境に注目して紹介していく。その次に、中国の幼稚園の教育評価のあり方について、最後に中国の幼児教育の概要を論ずることとする。

2. 幼稚園の物的環境について

エントランス、園庭、建物内についてテーマ別に、各園の特徴や共通性等に関して論じていくが、便宜的に、4園を表1のようにA園～D園と呼び分けることとする。A園は師範大学附属の実験園で、大学のキャンパス内にある。大学職員が同じキャンパス内の宿舎（アパート）に退職後も住み続けることが多く、その子や孫が地域の子どものとして入園する割合が高いそうだ。B園は、A園と同じ蘭州市内のにぎやかな街のただ中に建つ1級幼稚園だが、設備が4園のうちで一番潤沢だった。C園は、今回訪問した場所としては最も西部の西寧市（それでも中国全体のほぼ中央部）に位置し、高層マンションが背景にそびえる下に建つ回教園である（園長は漢族出身の女性）。D園は北京の国立幼稚園。張（2014）によると、北京市は中国内陸部の経済発展途上の省に比べ、粗入園率、園児数対教師数、専門教師の比率、教育経費支出対GDPが格段に高く、中国国内の最高の水準にある。

（1）エントランス、建物全体

どの園も3階建て（B園は4階建てだが、4階部分は研修等に使う大人のエリアだそうだ）である（画像1、2）。日本は幼稚園設置基準で園舎は原則2階建て以下であり、3階建てとなると小学校以上というイメージがある。子どもの絶対数が多いということも関係しているだろう。今回訪問した園の園児数は日本より多めで、A園：400名程度、B園：600名程度、D園：200名台だった。1979年に始まった一人っ子政策が緩和される方向に転換した今、園児は今後増え続けることが予想される。

建物は、B園以外、黄色、緑、オレンジ色などの明るい色彩に全体あるいは部分が塗られていた。これは日本と同様の傾向であるが、建物内部にもはっきりした色を使うように感じた。



画像1 A園建物入り口



画像2 C園建物

（2）園庭

どの園にも広い園庭があり、地面は人工芝かゴムなどで覆われていた。A園だけ、地面が見える花壇のような部分を残していたが、なぜ大部分が人工芝なのかお聞きすると、「こ

中国(蘭州、西寧、北京)の4 幼稚園を訪問して — ユニバーサルな保育はあるのか —

浜口順子・小玉亮子・盧 中潔

1. はじめに

2017年10月30日～11月6日の1週間、私たちは中国を訪問した。主たる目的は、西北師範大学(蘭州市)と清華大学日本研究センター(北京市)で講演をすることだったが、幸運なことに、3都市4幼稚園を訪問する機会を得ることもできた。3都市とは、移動順に示すと、地図(図1)の中の:①蘭州市(甘肅省都)、②西寧市(青海省都)、③北京市である。



図1 中国における訪問地の位置

蘭州、西寧は、西方世界と結ばれるシルクロードの入り口近くに位置し、西北師範大学の先生方と話しても、また、街行く人の顔を見ている、漢族、満族、回族、ウイグル族など、多くの民族がそれぞれの文化を守りつつ共存する工夫と努力を重ねて生活しているのだと感じ、異文化性を普段あまり感じないで過ごしてられる日本という国は、世界の中でかえって特殊なのだと思った。特殊な国から来た私たちの目に、中国の保育が変わっていると映ったとしても、それはどちらが特殊なのかわからない、先入観をなるべく抑制して4園を見ようと考えた。

訪問先の幼稚園は、表1の4園である。中国では0～6歳の教育は「学前教育」と呼ばれ、現在は、一人っ子政策の結果である少子化現象と、都市集中による核家族化の中、0～2歳保育は祖父母に頼る傾向が強く、一人の子どもを両親2名とその両親4名で見守る「4-2-1育児」が進んでいるのだという。そのため、3歳児以上が通う幼稚園が現在の中国には多く、私たちが訪問した幼稚園もすべて3歳以上の教育・保育を、朝から夕方遅く(おおむね8:00～18:00)まで行うタイプの園だった。4園のうち、3園が「モデル園」で、「1級」とランク付けされている。「級」は主に幼稚園の環境、施設、教員の学歴などの客観的条件による基準で1～3級に分類される(張, 2013)。モデル園ではない

訪問日	園名	記号	幼稚園の種類	所在地
2017.10.31.	西北師範大学附属実験幼稚園	A	省1級公立園、省モデル園	蘭州市安寧区
2017.11.1.	蘭州市城関区保育院	B	省1級公立園、省モデル園	蘭州市城関区
2017.11.2.	西寧市柏童幼稚園	C	私立園	西寧市城東区
2017.11.6.	北京市朝陽区賽營幼稚園	D	北京市1級国立園、北京市モデル園	北京市朝陽区

表1 訪問園一覧

「4-2-1育児」が進んでいるのだという。そのため、3歳児以上が通う幼稚園が現在の中国には多く、私たちが訪問した幼稚園もすべて3歳以上の教育・保育を、朝から夕方遅く(おおむね8:00～18:00)まで行うタイプの園だった。4園のうち、3園が「モデル園」で、「1級」とランク付けされている。「級」は主に幼稚園の環境、施設、教員の学歴などの客観的条件による基準で1～3級に分類される(張, 2013)。モデル園ではない

浜口順子(お茶の水女子大学教授)

小玉亮子(お茶の水女子大学教授)

盧 中潔(お茶の水女子大学大学院博士後期課程学生)